

## 2018/10/14 先週のメッセージより 「何をしているのか分からない」

### ■あなたは何もわかっていない

先週、動物園のホワイトタイガーが飼育員を殺すという痛ましい事件がありました。飼育員は、ホワイトタイガーを生かし、助ける働きをしていたのに、ホワイトタイガーはその飼育員を殺してしまったのです。しかし、だからといって、ホワイトタイガーを裁判にかけて裁くべきだという人はいません。それは、ホワイトタイガーは、自分で何をしたかがわからないからです。

神と人の関係も同じことが言えます。イエス・キリストは、私たちにいのちを与え、助けるために地上に来られましたが、人間はイエス様を殺してしまいました。しかし、神は私たちを裁きません。それは、私たちが自分で何をしたかわかっていないからです。イエス様のことばを確認してみましょう。

「そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」（ルカ 23:34）

「まことに、あなたがたに告げます。人はその犯すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それはみな赦していただけます。しかし、聖霊をけがす者はだれでも、永遠に赦されず、とこしえの罪に定められます。」（マルコ 3:28-29）

「聖霊をけがす」とは、イエス・キリストを信じないことです。「聖霊をけがす者はとこしえの罪に定められる」とは、聖霊がイエス・キリストを信じるように導いておられるにも関わらず、それを信じなければ、天国には行けないということです。しかし、それ以外の罪について、神は一切さばかないとはっきりと語られています。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」（ヨハネ 3:17）

「あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだれをもさばきません。」（ヨハネ 8:15）

「だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。」

（ヨハネ 12:47）

## ■人は神がわからない

神が私たちがさばかない理由は、私たちは自分で何をしているのか、わかっていないからです。

ある時イエス・キリストは、サマリヤの女性に「水を飲ませてください」と声をかけられました。なぜ自分のような者に声をかけるのか不審がる女性に対して、イエス様は、「あなたは、私が誰かわかっていないから、そのようなことを言うのだ。」と言われました。

「ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください。」と言われた。弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」——ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである。——イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」（ヨハネ 4:7-10）

私達も同じです。「あなたは、目の前に神がいながら見えていない。聞いていながら聞こえていない。何も悟っていない。」と主は言われます。

哲学的表現をすれば、人間は体と魂から成る総合です。その体と魂は神が造ったものであり、聖書は教えています。

神は初めに、人の体を形づくり、そこにいのちの息を吹き込みました。「いのち」は複数形で、三位一体の神のいのちを表し、「息」には「魂」という意味があります。つまり、神はご自分のいのちを吹き込んで、人の魂にしたのです。こうして人は生きる者になりました。ですから、「神は人をご自分に似せて造った」あるいは、「私たちは神の一部」「キリストの器官」「神の子」などと言われるわけです。

体は、魂を支え、魂を生かす器です。そして、魂と体の調和を保つのが精神（心）です。魂は、神のいのちで造られているため、神を求める運動しかしません。手が物をつかむ働きをするように、目が見る働きをするように、魂は神を求める働きをします。私たちの魂は、いつも神を慕い求める運動をしており、体はその魂を支えているのです。

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。」（詩篇 42:1-2）

本来、魂と体は一つであり、永遠であったため、精神も安定していました。ところが、悪魔によって神と異なる思いが持ち込まれ、人は神との結びつきを失い、永遠性を失いました。つまり、死ぬものとなったのです。この「神と異なる思い」を「罪」と言います。神との結びつきを失い、有限になったため、人は見える安心を求めるしかなくなりました。これを聖書は「肉の思い」と呼びます。

体が有限になり、永遠である神を見ることも聞くことも触れることもできなくなってしまう

いましたが、魂は神を求める運動しかできません。神が見えない私たちが神を求めるとは、神の本質である永遠を求め、何ものにも制約されない自由を求め、可能性を求めるといことです。学問でも芸術でもスポーツでも、人々は可能性を追求し、さらなる自由を追求し、夢やビジョンを抱きますが、それは実は神を求めていることの表れなのです。

私たちは、自分の可能性や自由が開かれると喜びを覚え、その道が断たれるとつらさを感じます。なぜそんなことで一喜一憂するのか、それは、すべての人の魂が神を求める運動をしているからなのです。

## ■不安・絶望を解決する方法

神と異なる思いを抱いたことによって、神と一つである状態を失い、私たちは、いくら魂が神を求めても、それを見ることができなくなりました。体は見えるところの安心を求めますが、いくら体の要求を満たしても、神を求めている魂を満たすことはできません。

魂と体が別々のものを要求するため、精神は調和が取れず、不安定な状態になります。すべての人は、24時間、このような不安と絶望の中にいるのです。私たちは、大切なものを失うとか、仕事がうまくいかないなどで、絶望や不安を感じますが、実は、それはきっかけに過ぎず、その絶望は常に存在しているのです。

この不安や絶望は、神を求める運動がかなわない限り、解決することはありません。魂は神を求め、体はそれを否定し、魂が善なる方向に向かおうとしても、体が悪の方方向に引っ張るという現状が、私たちに不安を与えます。神との関係ができなければ、この不安や絶望を解決することはできないのです。

「わたしが彼らにたとえて話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上に実現したのです。『あなたがたは確かに聞きはするが、決して悟らない。確かに見てはいるが、決してわからない。この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らとその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。』」（マタイ 13:13-15）

死の世界に生きる私たちは、神が見えず神の言葉も聞こえません。しかし、そのような私たちのもとに、イエス・キリストが来られ、イエス様こそ聖書で約束されていた救い主なる神であると教えられました。こうして私たちは、神によって信仰を持つことができるようになりました。

「しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。」（マタイ 13:16）

## ■キリストを知る幸い

肉の体は、神を見たり、神の声を聞いたりすることはできません。キリストを知るとは、神が信仰を持たせてくださったということであり、霊的にわかるようになるということです。

キリストとの交わりができるようになったクリスチャンに対して、これからはキリストとの交わりを第一にするように、神は教えておられます。これまでは、神を求めたくても求めることができなかつた私たちですが、イエス様を知り、自分が求めているのは、イエス様であることを知りました。この土台としっかり結びつかなければ、建物は壊れてしまいます。

「というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」(I コリント 3:11)

私たちは、神のいのちによって造られ、その魂は神を求めるようになっていきます。神が見えなくなったことによって、自分の魂が何を求めているのかわからなくなってしまいました。イエス・キリストによって、自分が求めていたのは神だということに気付くことができました。

私たちがこの地上で出会う問題は、私たちに不安や絶望をもたらしますが、実は、その苦しみの原因は、見える問題を解決するところにあるのではなく、神とつながっていないところに根本的な原因があったのです。神との関わりなくして、問題の根本的な解決はあり得ないのです。

イエス・キリストは、サマリヤの女性に「あなたは何もわかっていない」と言い、あなたが本当に求めているのは、私自身であるとお話しになりました。

「イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渴きます。しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」(ヨハネ 4:13-14)

人は、のどの渴きをいやすために、水を求めますが、いくら飲んでもまたのどが渴きます。同様に、心の渴きをいやすために有限なるものを求めても、その時は満たされたように思いますが、再び渴きます。しかし、「私が与える水は違う」と、イエス・キリストは言われます。

私たちは、飲んでほくことを繰り返して生きています。しかし、いくら繰り返しても、それは意味がないことです。私たちが本当に求めているのは、神だからです。キリストが与える水を飲まない限り、人は渴き続けるのです。このことに気づかなければ、人は正しい生き方ができないのです。人の目を恐れ、操り人形のように人の目に操られ、自分を放棄する生き方になってしまいます。イエス・キリストという土台の上に、しっかりとした家を建てなければなりません。

このことに気付くためには、本当の魂の飢え乾きを体験することが必要です。それは、絶望です。絶望を体験しなければ、神を求めることはできません。これに気づく時、嘘のように目が開かれて、生き方が変わってくるのです。

## ■一番大切なもの

あなたは、自分にとって本当に大切なものは、イエス様しかいないと思っているでしょうか。

イエス様を一番大切にするその第一は礼拝です。あなたは1週間の中で、礼拝を一番大切にしていると言えるでしょうか。ほかに大切な用事がなかったら行く、というのでは、あなたが一番大切にしているのは神ではありません。それではいつまでたっても、のどの渇きは癒せません。時々、つらくなったら祈り、元気が出てきたら自分の求めたいものを求める生き方を繰り返すことになります。自分にとって大切なのは、神を慕い求めることだということに気づくことが必要です。

なぜ人は、自分の可能性を求めるのか、自由を求めるのか、それは神がいるからです。神だけが自由であり、神があなたの可能性です。このからくり気づき、礼拝を大切に、毎日の祈り、御言葉を大切にするという基本をしっかり守り、生ける水による渇くことのない満たしを受け取りましょう。

自分が求めているものはイエス・キリストだという基本からずれると、何をやってもものが渇きます。すべての問題の原点は、神とのつながりがうまくいっていないところにあります。このつながりがあれば、決して倒れない家を建てることができます。すべては、イエス様を大切にしようという、あなたの決心にかかっているのです。